

広島県議会

手話言語条例制定の第1回検討委員会が始まります

～広島県は手話言語条例と情報コミュニケーション条例～

2/14（金）広島県議会生活福祉保健委員会が開かれました。そこで、今年11月に、日本で初めて開かれる聴覚障害者の国際的なスポーツ大会であるデフリンピックが開催されることもあり、手話言語条例と情報コミュニケーション条例制定の機運が高まっているので具体的な検討を進めて行くことを決めました。第1回条例検討委員会が3月10日に県庁で開かれ、手話言語条例と情報コミュニケーション条例を別立制定する方向で具体的な検討が進められます。



写真提供 広島テレビ

（大西理事）

広島市議会

デフリンピックについて

幸城議員が質問しました



写真提供 広島県ろうあ連盟

2/19（水）公明党の幸城麗子（こうしろれいこ）議員が市議会の総括質問の中でデフリンピックについて質問をされるとの

情報があり、9名（ろう者6名、聞える人3名）で傍聴に行きました。また事前申し込みをし、市議会の予算で2名の手話通訳者を派遣してもらいました。

幸城さんは質問に入る前にまずデフリンピックについて簡単に説明をされました。

- ・デフリンピックとは聞こえない人、聞こえにくい人のオリンピックである。
- ・2025 東京デフリンピックが記念すべき 100 回目の大会である。
- ・オリンピックとルールはほぼ同様だが、フラッシュランプなど視覚的情報保障の工夫がある。
- ・認知度が大変低いことが課題である。（パラリンピック 97.9%、デフリンピック 16.3%）

これらの説明後、広島市に2つの質問をされました。

- ①東京 2025 デフリンピックに対してどのような支援を考えているか。
- ②障害がある人がスポーツを通じて社会に参加する機会を増やすことは地域の共生や多様性を深めていくことに寄与すると考えるが、そのことについてどのように考えているのか。

その質問に対して広島市からは、デフリンピック大会ビジョンの一つ“誰もが個性を活かし、力を発揮できる”共生社会の実現は、新しい広島スポーツ王国の理念である「障害の有無に関わらずそれぞれの思いに沿ってスポーツに関わっていくことができる」にマッチするものと考えている。国内初となる東京 2025 デフリンピック開催が認知度向上のきっかけになると期待される。広島市としてはデフリンピック認知度向上のための広報や広島市出身選手を激励する機会を設けることを通して機運上昇に対する支援をしたいと回答されました。

（大西理事）

尾道市 《中国新聞3月1日》

手話言語条例制定へ

手話言語条例を尾道市が制定へ

尾道市は、手話を言語に位置付けて普及を促す「手話言語条例」を制定する。手話通訳者養成講座の助成拡充などの施策を検討し、市民や事業者に理解と協力を求める。聴覚の有無で分け隔てられないことのない共生社会の実現を目指し、手話通訳者の処遇改善などの施策も推進する。条例は4月に施行する。

備後地方では2017年の福山市、23年の三原市に続く制定。市議会などで条例を望む声が上がっていた。また、手話のほかに点字や盲訳、筆談などの普及を呼びかける「情報コミュニケーション条例」も併せて定める。